

1-6 環境基準が設定されている4物質の経年推移

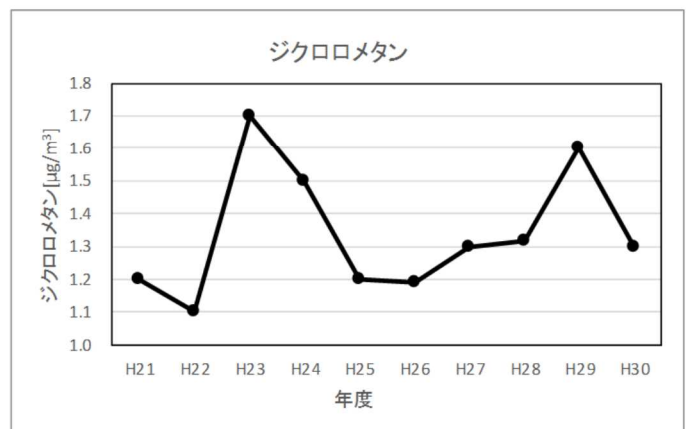
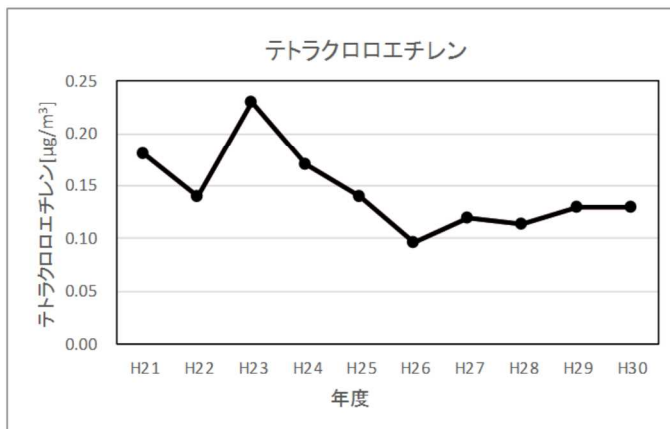
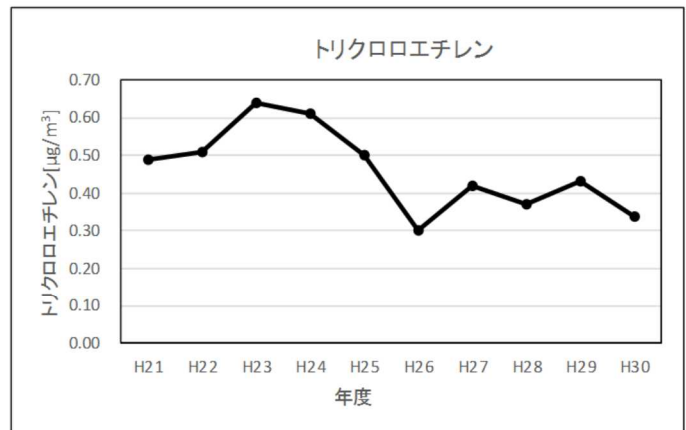
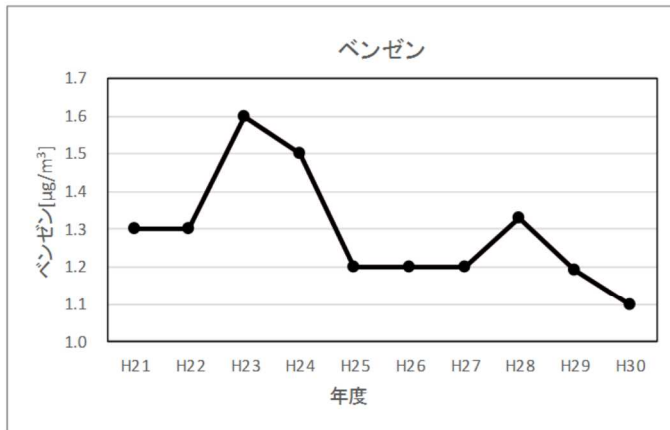
平成21年度から30年度までのベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びジクロロメタンの全地点平均値について経年推移を示した。

ベンゼン：平成23、24年度において若干濃度が高かったが、それ以外の年度は1.1～1.3 μg/m³で推移した。

トリクロロエチレン：平成23年度をピークに減少傾向にあったが、27年度以降は横ばいの傾向を示した。

テトラクロロエチレン：平成23年度から26年度にかけて減少したが、26年度以降は横ばい傾向となった。

ジクロロメタン：平成23、24年度に濃度が上昇し、25年度からはやや上昇の傾向が見られたが、30年度は再び減少に転じた。



1-7 指針値が設定されている9物質の経年推移

平成21年度から30年度までのアクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、水銀及びその化合物、ニッケル及びその化合物、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、1,3-ブタジエン、ヒ素及びその化合物及びマンガン及びその化合物の全地点平均値について経年推移を示した。

アクリロニトリル：平成24年度をピークに低下傾向を示しており、28年度以降は横ばいで推移している。

塩化ビニルモノマー：平成22年度をピークに25年度にかけて大きく減少したが、それ以降は上昇傾向を示している。

水銀及びその化合物：1.7～1.9 μg/m³の間で横ばいで推移した。

ニッケル及びその化合物：平成22年度をピークに26年度にかけて減少し、28年度まで上昇傾向を示したが、それ以降は再び減少傾向にある。

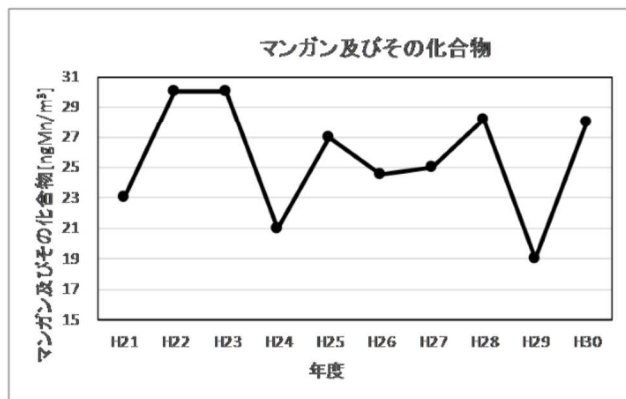
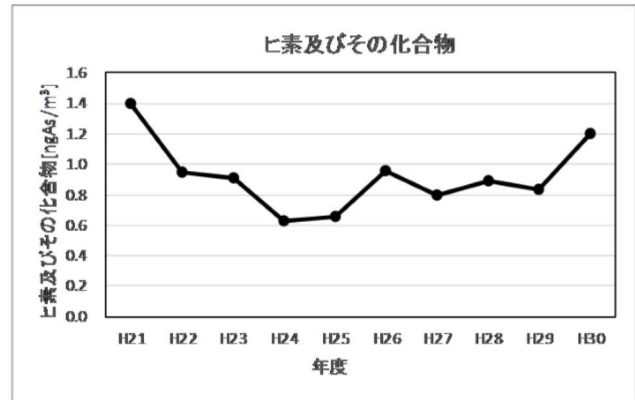
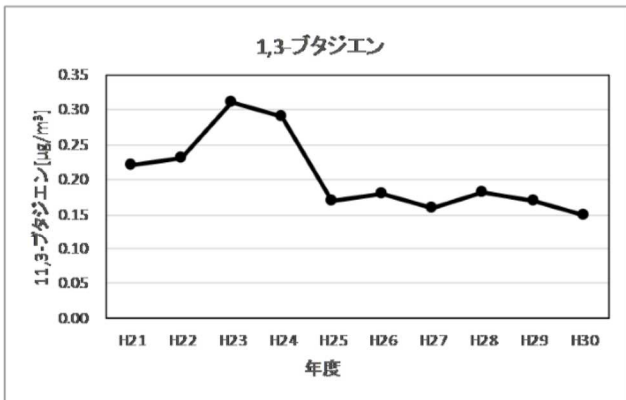
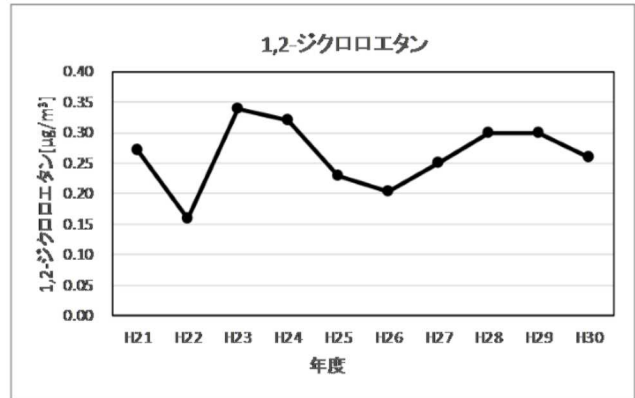
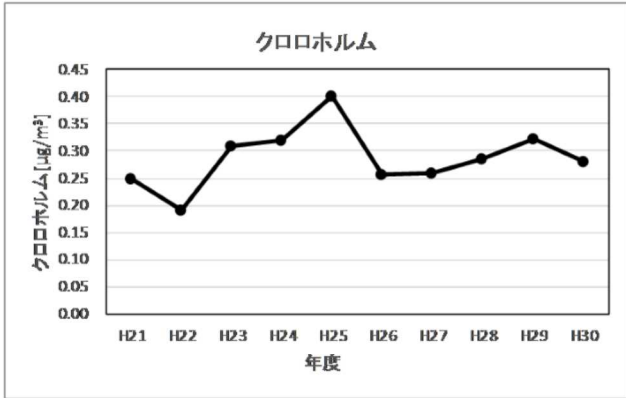
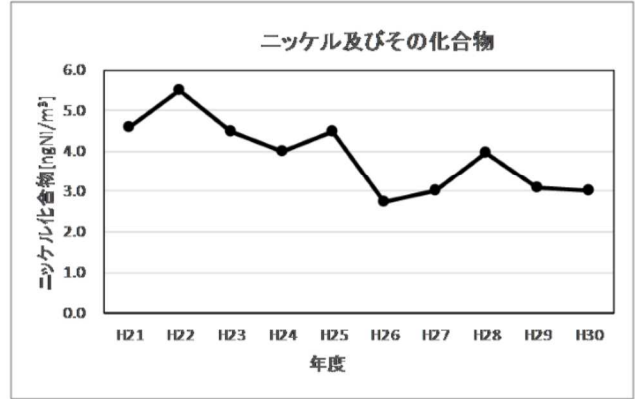
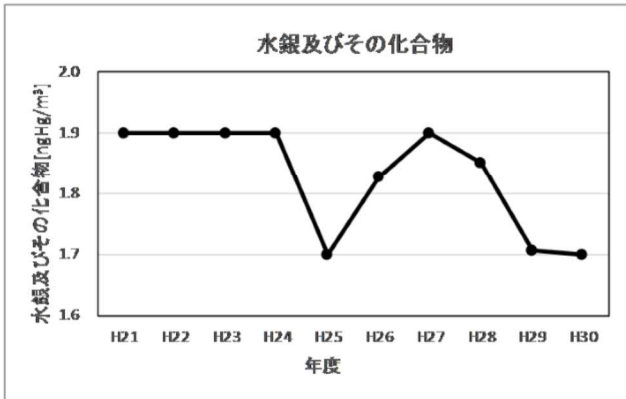
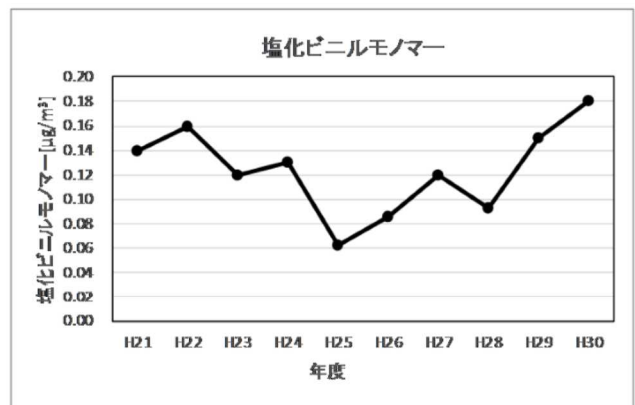
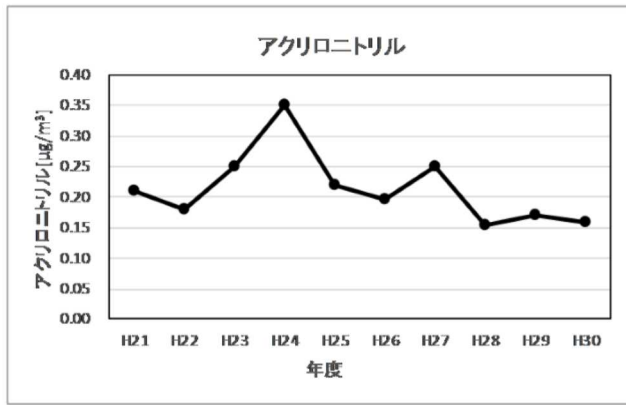
クロロホルム：平成25年度に濃度が上昇したほかは、概ね横ばいで推移した。

1,2-ジクロロエタン：平成23年度をピークに26年度にかけて減少したが、それ以降はやや上昇傾向を示した。

1,3-ブタジエン：平成23年度をピークに25年度にかけて大きく減少し、それ以降は横ばいで推移した。

ヒ素及びその化合物：平成21年度から24年度にかけて減少し、それ以降は緩やかな上昇傾向を示した。

マンガン及びその化合物：年度ごとの変動が小さく、ほぼ横ばいで推移している。29年度は濃度の高い千葉市の地点が参考値となったため、平均値は減少した。



1-8 環境基準及び指針値が設定されていない8物質の経年推移

平成21年度から30年度までの全地点平均値について経年推移を示した。

アセトアルデヒド：平成23年度から25年度にかけて低下し、25年度以降上昇傾向を示したが、30年度は減少に転じている。

酸化エチレン：平成26年度にピークがあり、その後低下した。

ベンゾ[a]ピレン：経年的な変動が大きいが、29年度、30年度は減少傾向にある。

ホルムアルデヒド：平成22年度から25年度までは横ばい、26年度にいったん上昇したが、その後は横ばい傾向を示した。

ベリリウム及びその化合物：平成22、26、30年度に大きく上昇する変動を示した。

クロム及びその化合物：平成21年度から23年度にかけ上昇し、24年度に減少後、25年度にやや上昇し、その後はほぼ横ばい傾向を示した。

トルエン：平成24年度にピークとなり、25年度以降は横ばい傾向を示したが、30年度は減少に転じた。

塩化メチル：測定を始めた平成23年から濃度の変化は小さく、ほぼ横ばいの傾向を示した。

